

138 弟子の責務(赦し、信仰、奉仕)

ルカによる福音書/ 17 章 01 節

< 1 > 赦しに関する教え

01 イエスは弟子たちに言われた。

「つまずきは避けられない。だが、それ (→律法主義、拝金主義、物質主義等) をもたらす者 (ファリサイ派の人たちや律法の専門家) は不幸である。

02 そのような者は、これらの小さい者 (→霊的幼子) の一人をつまずかせるよりも、首にひき臼 (→碾き臼：石臼) を懸けられて、海 (→ガリラヤ湖) に投げ込まれてしまう方がまし (→増し：どちらかと言えば優っていること) である。

→つまずき(躓き)：ギリシア語で「skandalon」(スキャンダロン/スカンダロン)、「つまずきの石」や「罣(わな)」、「落とし穴」「障害物」の意味でも使われる。→本来の神の意図から外れること、道徳的な罪、聖書の意味を変更(曲解)するような教えなど。

→(ルカによる福音書 11 : 52) あなたたち律法の専門家は不幸だ。知識の鍵を取り上げ、自分が入らなればかりか、入ろうとする人々をも妨げてきたからだ。

03 あなたがたも気をつけなさい。もし①兄弟が罪を犯したら、戒めなさい。そして、②悔い改めれば、赦してやりなさい。

04 一日に七回あなたに対して罪を犯しても、七回、『悔い改めます』と言ってあなたのところに来るなら、赦してやりなさい。

→(口語訳) もしあなたに対して一日に七度罪を犯し、そして七度『悔い改めます』と言ってあなたのところへ帰ってくれば、ゆるしてやるがよい。

→罪に対しては、悔い改めれば、完全(七：完全数)な赦しをもって対処する。

①罪を犯している人を戒める(再び過ちを犯さないように懲らしめる)、②悔い改めれば、赦す。

→(エフェソの信徒への手紙 4 : 32) 互いに親切にし、憐れみの心で接し、神がキリストによってあなたがたを赦してくださったように、赦し合いなさい。→天の父が私たちを扱ってくださる方法

< 2 > 奉仕に関する教え

05 使徒たちが、「わたしどもの信仰を増してください」と言ったとき、

06 主は言われた。

「もしあなたがたにからし種一粒ほどの信仰があれば、この(いちじく)桑の木に、『抜け出して海に根を下ろせ』と言っても、言うことを聞くであろう。

→からし種は小さな黒い種で、香辛料や薬として用いられた。からしの木は人の背丈位になった。

→桑(いちじく桑)の木は、約 6m の高さになり、幹がとても太くなる。実は熟すと黒くなり、甘い果汁を含む。一番下の最初の枝は幹の低いところから生えるので、背の低いザアカイ(ルカ 19 : 1~4)にも登りやすかった。



→(ルカによる福音書 19 : 1~4) イエスはエリコに入り、町を通っておられた。そこにザアカイという人がいた。この人は徴税人の頭で、金持ちであった。イエスがどんな人か見ようとしたが、背が低かったので、群衆に遮られて見るができなかった。それで、イエスを見るために、走って先回りし、いちじく桑の木に登った。そこを通り過ぎようとしておられたからである。

07 あなたがたのうちだれかに、畑を耕すか羊を飼うかする僕がいる場合、その僕が畑から帰って来たとき、『すぐ来て食事の席に着きなさい』と言う者がいるだろうか。

→主人は僕(奴隷)がいかに忠実であっても、僕と共に食卓に着くことはない。

08 むしろ、『夕食の用意をしてくれ。腰に帯を締め、わたしが食事を済ますまで給仕してくれ。お前はその後で食事をしなさい』と言うのではなかろうか。

09 (いくら忠実に) 命じられたことを果たしたからといって、主人は僕に感謝するだろうか。

10 あなたがたも同じことだ。自分に命じられたことをみな果たしたら、『わたしもは取るに足りない (→取り上げるほどの価値がない、問題にもならない) 僕です。しなければならないことを(ただ忠実に) しただけです』と言いなさい。

→取るに足りない僕という自己認識、正しい心構えを持った信仰は、奉仕を通して成長する。

→使徒言行録 20 : 19、ローマの信徒への手紙 8 : 18、コリント信徒への手紙 II 12 : 11

【参考】 Mastery for Service (関西学院 [スクールモットー](#))

「マスター」とは普通「主人」を意味しますが、関西学院では人間性、学び、生活においても完成された人格、第4代院長ベーツの言葉でいう「Self-Master=自主」(→他の保護や干渉を受けず、独立して行うこと)である人を意味します。「サービス」は、それをもとに関西学院のキリスト教主義的な理解では「神への奉仕」を原点として隣人、社会、他者に仕えて生きる人間のあり方を示すものです。

自らに与えられた人間的な豊かさ、それを自らが何ものにもとらわれなくて、よりよき社会を創造するためにささげ用いてゆく生き方、それが「輝く自由、Mastery for Service」と関学人が歌い上げる私たちが求め続ける姿なのです。

【参考】 からし種 (Mustard Seed)

| タイトル(書名) | 章:節 聖句 [検索対象総数 : 5 / 聖句等の総数 33250 (からし種)5個] | 聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙 : からし種] |
|-------------|---|--|
| S マタイによる福音書 | 13:31 イエスは、別のたとえを持ち出して、彼らに言われた。「天の国はからし種に似ている。人がこれを取って畑に蒔けば、 | |
| S マタイによる福音書 | 17:20 イエスは言われた。「信仰が薄いからだ。はっきりしておく。もし、からし種一粒ほどの信仰があれば、この山に向かって、『ここから、あそこに移れ』と命じても、そのとおりになる。あなたがたにできないことは何もない。」 | |
| S マルコによる福音書 | 4:31 それは、からし種のようなものである。土に蒔くときには、地上のどんな種よりも小さいが、 | |
| S ルカによる福音書 | 13:19 それは、からし種に似ている。人がこれを取って庭に蒔くと、成長して木になり、その枝には空の鳥が巣を作る。」 | |
| S ルカによる福音書 | 17:6 主は言われた。「もしあなたがたにからし種一粒ほどの信仰があれば、この桑の木に、『抜け出して海に根を下ろせ』と言っても、言うことを聞くであろう。」 | |

からし種は、本来は、「からし菜」(右図、木ではない)の種のことである。

→キダチタバコ : 木立煙草 (からし種、左図)

ナス科、南アメリカ原産。樹高5~6m、半常緑、黄色い筒状の花が咲く。聖書に登場する「からし種」は本来、アブラナ科のカラシナ類の「からし菜」ことですが、小さな種子から大きく生長することから、いつの間にか本種(イスラエルに古くからあったものではない。しかし、あまりにも細かい種子であるので、今日ではこれがそのからし種だと言い伝えられている)が「からし種」の俗称となった。

有毒で誤って食べると下痢、嘔吐、頭痛、しびれ等、激しい中毒症状を呈する。

